

ほづみーと～meet(会う)～・オンライン

開催結果報告

- 1 開催日時 令和8年2月12日(木)
午後7時から8時まで
- 2 開催場所 オンライン
- 3 参加者 太田市在住・在勤・在学者 5名
- 4 テーマ 「太田市の未来について
市長と自由に対話してみよう」

太田市の未来を考える 市長と語る

「ほづみーと～meet(会う)～
・オンライン」

太田市の未来について
市長と自由に対話してみよう

5 主な対話の内容

No.1 多文化共生について

【参加者】

現在、高校1年生。幼稚園の頃に日系ブラジル人の方々と友達になった。その経験から、今になって、多文化共生の意義や、海外から来る人々と仲良くなることの大切さが重要になっている。

【市長】

太田市には、約16,000人位の外国の方がいらっしゃる。あなたが考える理想としている街は、どういったものか。

【参加者】

今以上に人種や国籍の壁など境界線をなくし、もっと仲良く暮らしていけるような社会を望んでいる。

【市長】

私も同じように考えている。太田市は多くの外国の方が働いており、生活をしている。ただ、今のところは、日本の方と外国の方が日頃からコミュニケーションを取る機会が少ないということは感じている。そのことについては、どのようにしたらよいと思うか。

【参加者】

私の通っている高校で、先輩方がボランティアとして多文化共生ができるサッカーイベントを行ったことがある。そこからインスピレーションを得て、市内の体育館などを利用して、文化的格差が少ない競技などで運動会を開こうかと思っている。

【市長】

とても良い考えだと思う。太田市内のブラジル人が通う学校にお邪魔したことがある。その時に、日本の方とあまりかかわっていないことが見て取れ、同じ太田に住んでいるのに、別々の生活をしているということに改めて感じた。おっしゃる通り、スポーツを介することで、言葉でなくてもコミュニケーションがそこから広がるなと思う。

【参加者】

太田市にある国際交流のボランティアのことについて、募集している日程や時間帯などから、学生や若者が参加しにくいので、もっと機会を増やしてほしい。

【市長】

若い子たちが、積極的に多文化についての活動してくれるというのが、最も太田にとって心強いこと。すぐに具体的なことは申し上げられないが、今後どういったことができるかを検討していく。

No.2 より良い未来について（①太田市の強み、良さ②市長は、太田市をどう変えようとしているか③太田市内、市街地の交通行政）

【参加者】

太田市は、自動車関連の企業を中心に雇用生産高が高い。そういった企業のもとで働いている中小企業の方々と話す機会が多いのだが、自動車関税の問題など、厳しい話題が出る。そのようなことも含め、中小企業で働く方々の思いや、逆境から抜け出せるような支援策をお願いできないか。

【市長】

アメリカの関税の状況で、かなり営業利益が減っている。そういった中で、自動車を買う

ための税金を国に下げてもらったり、ガソリンの暫定税率をなくしてもらったりを働きかけることなどができると思うが、これから取り組みたいと考えてることは、国内需要喚起である。アメリカでの売り上げは、決して悪くはないが、関税によってどうしても利益が落ちてしまう。そのため、国内で販売台数を増やせるような後押しをできたらと考えている。

【参加者】

太田市は、道路がきれいにクロスしており、わかりやすい構造ではある。しかし、それが逆に障害になっており、国道や県道を通る道路など、用事がある方も通りたがらない。渋滞で皆さんが悩まれているが、そこに今まで手を付けて来なかった。20万人都市の主要な道路は、概ね高架になっているが、群馬県はそれが弱い。具体的には、通過する方と、その中で生活する方との交通を分けるなど。国道354は、その辺が上手くいっている感じはする。そのため、そういったことをお願いできないかと思う。

【市長】

今、ちょうど地域公共交通の新たな計画を策定する段階にある。そのメンバーとして、新たにスバルさんに入ってもらい、具体的に企業の皆さんと直接太田市の公共交通や地域交通を含めて、どういった形が最も良いかということ話し合う場を作った。急に高架化するなどはできないので、まずは公共交通を少し使っていただくようなことを促したりなどできることから始めていく。ただ、太田市は、街のど真ん中に工場があるので、どうしても中心部に自動車が増えてくるという特徴がある。そういった課題をどのように解決していくかということを検討している最中なので、人の流れや、仰ったことも含めて、参考にして取り組みたいと思う。

【参加者】

今まで箱もの行政でいろんな施設ができ、良い面もあるが、今後、市長は転換する予定があるか。

【市長】

確かに、建物を含めた公共施設の1人あたりの面積が、他の同規模の自治体と比べると少し多い。これが今後かなりの負担になってくるという現状がある。そのため、いかに公共施設を維持し、皆さんにとって良い形での利活用ができるように取り組もうと思っている。

No.3 八幡テニスコート管理について

【参加者】

40年位テニスが続けている。テニスを始めてから風邪も引きにくくなり、毎日健康に過ごしている。現在、八幡コートを利用しているが、そこはクレートコートである。メンテナンスに手間がかかるため、利用者にはそこまではできない。数年前までは、専任の管理者がいて、状態の良いコートであった。しかし、2年前位から専任の管理者がいなくなったのか、コートが荒れ始めた。利用者も利用後には、ブラシをかけたり、ラインを掃いたりしているが、現在はプレイヤーが走り回るところが凹んでしまっている。また、ラインテープが切れている箇所もあり、危険。利用者は、高齢者が多く、自分自身もそうだが、健康を維持するために、できるだけ長く続けたいと思っている。その他にも、数年前から利用料が年間1,000円から3,000円に値上げとなった。残念なことに、そのころからコートが傷み始めた。定期的に見て、メンテナンスしてほしいというのが、利用者の意見。

【市長】

承知した。八幡コートの管理については、確認してみる。

No.4 太田市が今後更なる発展をするための提案について【①市街地の主要幹線道路の渋滞緩和②市街中心部から北関東自動車道への直接アクセス可能な道路の新規バイパス整備③太田駅北側旧市街エリアの活性化④金山にウォーキングロード・サイクルロードを新規にデザインし、市民の健康増進エリアとなるよう広域市民公園に指定する（金山ブランドの構築）】

【参加者】

太田市は、慢性的な渋滞に悩まされている。主に、太田駅北側に位置する。国道 407 号の熊野町エリアと、イオン周辺の石原南交差点付近である。この 2 つのエリアの混雑は、市民の経済活動や生活の質を著しく下げている。新 407 号バイパスの整備を具体的に提言したい。

国道 407 号をルート変更し、道路拡幅を軸として、立体交差を導入した新バイパスを整備する。これにより、市中心部から北関東自動車道および国道 50 号へ直結する大動脈を築く。実現できれば、イオン付近の渋滞は解消され、物流効率も飛躍的に向上する。

また、この構想によって、金山へのアクセスも飛躍的に向上する。社協センターや水道山付近に大型駐車場を整備することで、市民が気軽に金山にアクセスできる。ウォーキングロードとサイクリングロードを新設し、市民の健康増進エリアとして、金山丘陵全体を広域市民公園へ指定することを提案したい。

【市長】

とても具体的で、ワクワクしてくる内容であった。金山は、さまざまな可能性を持っており、再生やリブランドは、まさに今取りかかろうと考えている。

また、新 407 号構想も大変興味深い。交通渋滞ができる原因として、道が折れ曲がっていることもその 1 つである。ぜひ、参考にさせていただく。

参加者と市長のフリートーク

【参加者 3】

現在は、細い道でも、国道 407 号へアクセスするための抜け道になっていて、渋滞している。社協センター付近の交通渋滞解消の話聞いていて、一方通行はどうかと思った。

【市長】

一方通行は、おもしろい発想だと思う。

【参加者 2】

住んでいる地域が、市内中心部に比べて、バスの本数などが充実していないので、その辺の改善もぜひ検討してほしい。

【市長】

承知した。

【参加者 1】

市長は、何かに挑戦するとき、メンタル面など、どのような考え方で臨んでいるのか。参考にしたい。

【市長】

理由は 1 つだけではないが、「今日より明日」というように、常に向上心を持って成長したいという考えがベースにある。1 年後の自分がどう変わるかということを一歩一歩進んできた中で、もともと太田市を良くしたいという気持ちが強く、選挙に出る決意をした。

【参加者 1】

何かを成し遂げた後の自分を想像するということか？

【市長】

そうです。50代にはこのぐらいになっていたいな、60代にはこういうふうにしてたいなというのは常に想像するようにしている。